

平成28年度（H28 シカ年度）隣接地域エゾシカ個体数調整実施結果

1. ウトロ地区

<概要>

- ・ 囲いわなによる捕獲をウトロ東、ウトロキャンプ場、フンベ川（ウトロ下水処理場裏）、弁財崎、三段滝の5箇所を実施。

<結果>

1) ウトロ東 囲いわな（1年目）

- ・ 捕獲は自動捕獲装置（センサー式）を使用。
- ・ 餌付け誘引は12月13日～3月14日までに44回。
- ・ 囲いわな稼働期間は1月17日～3月14日の60日間（0.32頭/日）。
- ・ 捕獲数は19頭（オス成獣1頭、メス成獣10頭、0歳8頭）。
- ・ 捕獲回数は8回で1回当たりの捕獲数は1～4頭（平均2.38頭）。

2) ウトロキャンプ場 囲いわな（4年目）

- ・ 捕獲は自動捕獲装置（センサー式）を使用。囲い部を金網にして小型化し内部を見通せるように改良。
- ・ 餌付け誘引は12月8日～3月15日までに39回。
- ・ 囲いわな稼働期間は1月24日～3月17日の53日間（0.19頭/日）。
- ・ 捕獲数は10頭（オス成獣1頭、メス成獣3頭、0歳6頭）。
- ・ 捕獲回数は6回で1回当たりの捕獲数は1～3頭（平均1.67頭）。

3) フンベ川 囲いわな（3年目）

- ・ 捕獲は遠隔操作による捕獲システムから自動捕獲装置（センサー式）に変更。
- ・ 餌付け誘引は、12月13日～3月15日までに36回。
- ・ 囲いわな稼働期間は、1月30日～3月17日の47日間（0.06頭/日）。
- ・ 捕獲数は3頭（オス成獣3頭、メス成獣0頭、0歳0頭）。
- ・ 捕獲回数は4回で、1回当たりの捕獲数は1～2頭（平均1.75頭）。

4) 弁財崎 囲いわな（2年目）

- ・ 捕獲は自動捕獲装置（センサー式）を使用。
- ・ 餌付け誘引は、12月8日～4月28日までに76(37+29)回。
- ・ 囲いわな稼働期間は、1月25日～4月28日の81日間（0.19頭/日）。
- ・ 捕獲数は15頭（オス成獣2頭、メス成獣6頭、0歳7頭）。
- ・ 捕獲回数は8回で、1回当たりの捕獲数は1～5頭（平均2.14頭）。

- 5) 三段滝（三者協定） 囲いわな（4年目）
 - ・捕獲は自動捕獲装置（インターネット回線使用の遠隔操作）を使用。
 - ・餌付け誘引は、12月3日～4月30日の149日間。
 - ・囲いわな稼働期間は12月4日～4月30日の150日間。
 - ・捕獲数は10頭（オス成獣1頭、メス成獣2頭、0歳7頭）。
 - ・捕獲回数は4回で、1回当たりの捕獲数は1～3頭（平均2.50頭）。

<捕獲効率>

- 1) ウトロ東は、地区全体で捕獲数が積雪量等の影響を受けて減少した中で、地区最大の稼働一日当たりの捕獲数（0.32頭）。
- 2) ウトロキャンプ場は、前年度に比べ捕獲数は減少（26頭⇒10頭）。
稼働一日あたりの捕獲数も大きく減少（0.50頭⇒0.19頭）。
- 3) フンベ川は、前年度に比べ捕獲数は減少（7頭⇒3頭）。
稼働一日あたりの捕獲数は激減（0.30頭⇒0.06頭）。
- 4) 弁財崎は、前年度に比べ捕獲数は減少（51頭⇒15頭）。
稼働一日あたりの捕獲数も減少（0.30頭⇒0.19頭）。
- 5) 三段滝は、前年度に比べて捕獲数は増加（7頭⇒10頭）。

<まとめ>

- 1) ウトロ地区の捕獲実績は47頭（目標捕獲数は140頭）<未達成>
4年間捕獲事業を継続・拡大したことにより、この地区の生息密度が低下したと考える。
- 2) ウトロ東の捕獲については、移動式の小型の囲いわなでも1～2年の短い期間であれば一定頭数の捕獲が可能であることが検証できた。今後のエゾシカの行動圏が限られた場所での捕獲手法の一つと考える。
- 3) ウトロキャンプ場の捕獲については、4年目となり警戒心の高いシカが周辺に多く残ることから捕獲数は減少。
平成29シカ年度は積雪状況等を踏まえて誘因効果の高い期間に限定して捕獲を実施。なお、誘因が難しい場所の個体群の捕獲については捕獲適期の3月中旬～4月下旬にキャンプ場周辺において箱わなによる捕獲を検討。
- 4) フンベ川の捕獲については、近隣農地周辺の有害駆除やフンベ川、三段滝の捕獲によりエゾシカの生息密度が部分的に低下したと考える。
平成29シカ年度は囲いわな内による捕獲を中止し、自動撮影装置による生息状況調査を予定。
- 5) 弁財崎の捕獲については、例年より積雪が少なかったため越冬時の餌食場所としての地理的優位性がなくなり捕獲数は減少した。
平成29シカ年度は他地区に比べ今後も一定期間は捕獲効率を維持できると考えられることから、誘因による馴化と捕獲期間の確保に努めて実施予定。

6) 三段滝の捕獲については、12月と4月の誘因効果の高い時期に実施したが、4年目となり警戒心の高いシカが多く残っているため捕獲数は初年度（96頭）と比較すると大きく減少した。

平成29シカ年度は捕獲を始めて5年目となり、今後はさらに捕獲効率が低下することが予想されるため関係者で協議する予定。

なお、平成29シカ年度は遠音別地区や真鯉地区の国道沿いで箱わなによる捕獲を本格させる予定。それらの捕獲状況等を踏まえてウトロ地区でも箱わなを検討。

2. 遠音別地区

<概要>

- ・ 囲いわなによる捕獲はオシンコシン崎（オシンコシン崎1・2）の2箇所を実施。
- ・ モバイルカリングによる捕獲は過去の出現傾向を踏まえて場所を絞ってして実施。
- ・ 銃猟による捕獲はオペケブ林道及び遠音別川周辺における遠距離射撃を実施。

なお、実施の際には通信機能を持つ自動撮影カメラを使用し、生息状況と誘因状況を把握確認して実施。

- ・ 一般狩猟捕獲支援の林道除雪を実施。

<結果>

1) オシンコシン崎1 囲いわな（3年目）

- ・ 捕獲は自動捕獲装置（センサー式）に変更。
- ・ 餌付け誘引は、12月9日～4月28日までに66回。
- ・ 囲いわな稼働期間は、1月24日～4月28日まで82日間（0.17頭/日）。
- ・ 捕獲数は14頭（オス成獣2頭、メス成獣7頭、0歳5頭）。
- ・ 捕獲回数は7回で、1回当たりの捕獲数は1～4頭（平均2.00頭）。

2) オシンコシン崎2 囲いわな（2年目）

- ・ 捕獲は自動捕獲装置（センサー式）を使用。
- ・ 餌付け誘引は、12月9日～3月15日までに37回。
- ・ 囲いわな稼働期間は、1月25日～3月17日までの52日間（0.29頭/日）。
- ・ 捕獲数は15頭（オス成獣4頭、メス成獣7頭、0歳4頭）。
- ・ 捕獲回数は5回で、1回当たりの捕獲数は1～4頭（平均3.00頭）。

3) オペケブ林道 モバイルカリング（3年目）

- ・ 実施路線は2路線、総延長は約3.3km。
- ・ ルーサンヘイバール（乾草ブロック）による誘引を、2月27日～3月21日までに16回実施。餌量は翌日の日没までに食べきる量を目安とし、林道沿いの定点に細かく破碎して広く散布。
- ・ モバイルカリングは、3月14日（16時～17時）と3月21日（16時～17時40分）の日没前に実施（運転手兼記録係1名・射手2～3名の体制×2班）。一部は車両

ではなく徒歩で移動して発砲。

- ・捕獲回数は2回、捕獲数は6頭。

4) オペケブ林道 遠距離射撃 (1年目)

- ・実施箇所はオペケブ林道沿いからオペケブ沢の対岸1カ所で実施。
- ・ルーサンヘイバール (乾草ブロック) による誘引を3月11日～3月21日までに5回実施。
- ・実施箇所オペケブ林道沿い3月5日～3月12日 (16時～17時30分) までに3回実施。いずれも捕獲には至らなかったが、通信機能を持つ自動撮影装置を使用し出現状況を把握して実施したことから、エゾシカとの遭遇機会は高くなった。

5) 一般狩猟支援の除雪

- ・オペケブ林道他2路線 (延長約3.3km) について、1月6日から2月28日までに6回実施。
- ・地元猟友会会員による捕獲数は10+数頭 (一部の者から聞き取り)

6) 遠音別川 遠距離射撃 (2年目)

- ・実施箇所は国道334号線から約300mの国有林の南西斜面 (針広混交林) で3月8日～3月19日に3回実施。
- ・ルーサンヘイバール (乾草ブロック) による誘引を2月23日～3月18日までに10回実施。
- ・捕獲数は6頭 (オス成獣2頭、メス成獣4頭、0歳0頭)。
- ・捕獲回数は2回で、1回当たりの捕獲数は2～4頭 (平均3.00頭)。

<捕獲効率>

- 1) オシンコシン崎1については前年に比べ捕獲数は減少 (34頭⇒14頭)。
稼働一日あたりの捕獲数も減少 (0.44頭⇒0.18頭)。
- 2) オシンコシン崎2については前年に比べ捕獲数は減少 (35頭⇒15頭)。
稼働一日あたりの捕獲数も減少 (0.81頭⇒0.29頭)。
- 3) オペケブ林道のモバイルカリングについては6頭 (0頭⇒6頭)。誘因等を含め延べ約36人で (1人当たり0.17頭) 捕獲回数に対する捕獲率は100%。
- 4) オペケブ林道の遠距離狙撃は捕獲できなかった。
- 5) オペケブ林道周辺の一般狩猟の頭数 (一部の猟友会会員から聞き取り) は前年に比べ減少 (30頭⇒10+ α 頭)。
- 6) 遠音別川の遠距離射撃については、捕獲数は6頭。誘因等を含め延べ約26人で (1人当たり0.23頭) 捕獲回数に対する捕獲率は66%であった。

<まとめ>

- 1) 遠音別地区の捕獲実績は29頭 目標捕獲数は90頭 (未達成)
- 2) わなの設置場所は国道と可猟区 (民有地) に挟まれた細長い形状の保護区内のため、適地が限られており誘引に時間をかけて十分馴化させることが必要である。

平成 29 シカ年度は誘因も時間をかけて十分馴化させて捕獲を行うとともに、オシンコシンの滝周辺では工事が実施されることから、工事の進捗状況を踏まえて工事箇所周辺での箱わなによる捕獲を追加することを検討。

- 3) 銃猟による捕獲については、引き続きモバイルカリング・遠距離射撃など複数の手法を組み合わせ継続しながら生息密度の低下を図る。

また、低下させた生息密度を維持する手法として有効と考えることから、平成 28 年度の実施結果を踏まえて、実施体制の規模(人員数や実施回数)、誘因の工夫、狙撃箇所の確保と除雪方法等を検討し、この地区での捕獲手法として確立する。

- 4) モバイルカリングについては、オペケプ林道の一般狩猟支援の除雪が狩猟者に浸透し入林者が増えたことから、今年度もエゾシカの車両や人間に対する警戒心の高い状況が3月以降も継続されており、平成 28 シカ年度に実施した一部車両を降車しての銃猟も含めて検討。

遠距離射撃については、オペケプ林道の対岸と遠音別川周辺での実施を検討。

遠音別川周辺については捕獲手法として確立しつつあるが、スマート化への対応等も含めて検討。

3. 真鯉地区

<概要>

- ・ 囲いわなによる捕獲を実施した。
- ・ 箱わなによる捕獲を実施した。

<結果>

- 1) 真鯉沢 囲いわな (2年目) 平成 27 シカ年度は休止
- ・ 餌付け誘引は2月15日～4月21日までに38回。
 - ・ 囲いわな稼働期間は、3月1日～4月21日までの41日間(0.24頭/日)。
 - ・ 捕獲数は1頭(オス成獣0頭、メス成獣0頭、0歳1頭)。
 - ・ 捕獲回数は1回。
- 2) 金山川 箱わな (3年目)
- ・ 折りたたみ方式のワイヤーメッシュ(径φ5.0mm・編目100mm角)製の箱わな(W0.×L1.8×H1.5m)を420mの区間に3基設置し、わな内の釣り糸に触れると捕獲扉が落ちる方式で捕獲を実施。
 - ・ 餌付け誘引は2月15日～4月21日までに40回。
 - ・ 箱わな稼働期間は、3月1日～4月21日までの41日間(0.24頭/日)。
 - ・ 捕獲数は10頭(オス成獣1頭、メス成獣3頭、0歳6頭)。
 - ・ 捕獲回数は9回。1回当たりの捕獲数は1～2頭(平均1.10頭)。

<捕獲効率>

- 1) 囲いわなについては、前年捕獲実績がなかったものから捕獲に成功した。
- 2) 箱わなについては、前年に比べ捕獲数は減少した(11頭⇒10頭)。わな稼働一日あたりの捕獲数も0.17頭⇒0.52頭と増加した(一台あたりでは0.06頭⇒0.17頭)。

<まとめ>

- 1) 真鯉地区の捕獲実績 11頭 目標捕獲数は30頭(未達成)

囲いわなについては、国道付近に移設し囲い込み部を大きくして捕獲を実施。

箱わなについては、27シカ年度と同様に捕獲を実施した。

雪積が少なく囲いわな・箱わな周辺に季節移動するエゾシカが少なかったことが考えられるが、箱わなについては傍らで餌を食べる状況が映像で確認されており、一箇所に複数を設置して捕獲が可能と考える。

平成29シカ年度は箱わなを増設し捕獲する予定。

- 2) 巻き狩りについては、平成26～27シカ年度の実施結果を踏まえて、平成28シカ年度も実施する予定だったが、希少鳥類の営巣・繁殖に配慮し中止した。

知床世界遺産隣接地域でのエゾシカ捕獲実施箇所位置図（平成 28 シカ年度）



凡例	
捕獲実施箇所	●
銃猟捕獲実施箇所	●
一般狩猟支援(除雪)実施箇所	〰

S08 遠音別

S10 真鯉

S07 宇登呂

S=1:50,000